

# 名人の時間

## 道央・道北地域におけるこども食堂の実態と未来への提案

2024年2月から3月にかけて、北海道の道央・道北地域におけるこども食堂が存在している。

堂や地域食堂の見学およびインタビュー調査を実施し、さらにこども食堂スタッフのための研修にも参加する機会を得た。民間の研究助成を受けて実施できたことに感謝の意を表す。

まず、北海道におけるこども食堂の現状について整理する。北海道には令和5年4月時点での1箇所のこども食堂が存在している。

内 容は多様で、農業各食堂の取り組み

堂や地域食堂の見学およびインタビュー調査を実施し、さらにこども食堂スタッフのための研修にも参加する機会を得た。民間の研究助成を受けて実施できたことに感謝の意を表す。

こども食堂は運営方針や形態に違いがある。

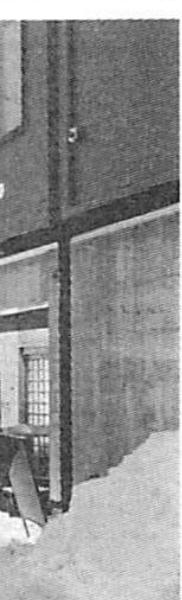
今回の調査で、都市部では農業との連携や大企業の支援を受けやすいとの結果が出ている。一方で、都市部と地方において大きな差は認められなかつた。むしろ、活動は個々の運営の

北地域では44箇所、道央地域では96箇所、札幌市内では14箇所となっている。

とのつながりを活かした取り組みや、大企業との連携、フレースクールを組み合わせた形態など、多

様なニーズに応じた支援が提供されている。

また、現在こども食堂が抱える共通の課題として、スタッフやボランティアの確保、高齢化、運営資金の安定確保が挙げられた。さらに、多くのこども食堂が他の食堂の状況を把握できていないことも課題である。



営力に依存しており、運営者の資源や意欲による差異が生じていると考えられる。

また、運営の質の向上が難しい状況であることが明らかになつた。今後、こども食堂同士の連携を強化し、運営ノウハウの共有を進めることで、地域全体のこども食堂の質の向上が期待される。

こども食堂は現

り、運営の質の向上が難しい状況であることが明らかになつた。今後、こども食堂同士の連携を強化し、運営ノウハウの共有を進めつつも、それらが画一的に運営される形になつてはならない。多様な提携体制とその支援がこどもたちの福祉の向上につながるのである。

こども食堂は現

り、運営の質の向上が難しい状況であることが明らかになつた。今後、こども食堂同士の連携を強化し、運営ノウハウの共有を進めつつも、それらが画一的に運営される形になつてはならない。多様な提携体制とその支援がこどもたちの福祉の向上につながるのである。

社会保育学科准教授 鈴木勲